



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>前回の外部評価を踏まえ、地域での事業所のあり方を職員間で話し合い、職員全員で意見を出し合って理念を作り上げている。</p>	<p>○</p> <p>利用者のニーズや状態、地域の変化などに応じて、ミーティングや運営推進会議などで検討し、より良い理念を作りあげたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ミーティング時に職員間で唱和し、確認し合うようにしている。また、誰の目にも見える所に理念を提示し、いつでも理念を確認できるようになっている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>誰にでも目の届く場所に理念を提示している。運営推進会議などで理念を伝えている。</p>	<p>○</p> <p>今後更に運営推進会議や家族会などで理念を伝えていきたい。お便りにも理念を載せ、地域の人たちでも見れるような工夫をしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>利用者と散歩をしている時などに隣近所の人と出会った際、挨拶を交わしたり、軽く立ち話をしている。近所のお店や理美容院などで顔なじみの関係になっている。立ち寄っていただく事はほとんどない。</p>	<p>○</p> <p>気軽に立ち寄っていただけるような工夫を今後していきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>年に一回の祭りで交流している。その他の行事の参加はほとんどない。利用者の認知度の低下に伴い、参加できる行事が限られてきている。</p>	<p>○</p> <p>職員や代表者と話し合い、参加できそうな行事に参加していきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>人材育成の貢献として、実習生の受け入れを行っている。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議などで話し合っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	自己評価を職員全員で行い、意義を理解している。外部評価の結果を踏まえ具体的に項目を上げ改善に取り組んでいる。	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議で話し合われた内容が職員に伝わりにくく、会議の意義も新しい職員にまで理解されていない。	○ ミーティング時に報告。具体的な取り組み方を検討する場を設ける。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	特になされていない。	○ お便りの発送など情報提供できるツールの開発。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	パンフレットは設置してあり名称は知っていても詳しく理解するまでには至っていない。	○ 勉強会の実施。対応が必要と思われる利用者がある場合は関係者と話し合う。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	マニュアルを設置している。研修などにより各々知識を深めている。	○ 勉強会の実施。全職員が高齢者虐待防止法を認識する。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	重要事項説明書などを提示し、不安を解決できるよう十分な説明を行い理解と納得を図っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や不満を言える環境作りに努力している。意見や不満があった場合は職員全員で共有し、解決に努めている。また、言葉だけではなく表情や行動からも感じ取るように努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月一回のお便りや、来訪時に利用者の近況報告をしている。また、特変時にはその都度電話などで報告している。金銭管理については、ホームで管理しているおこづかい等は出納表に記入し、お便りと一緒に発送している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族来訪時に意見や不満、苦情を聞きやすい環境作りに努めている。意見、不満、苦情がでた際には職員間で話し合い改善に努めている。玄関に意見箱を設置しているが意見などはほとんどない。	○	家族会実施予定。今後、定期的に開催し、家族が意見、不満、苦情を言やすいよう配慮していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見、提案は連絡帳を利用して全職員が共有し、解決できないことはミーティングで話し合い反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	病院の受診の同行など、その状況に合わせた勤務調整をしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職があった場合は細心の配慮をしているが、利用者が落ち着かなかつたりとダメージを防ぐまでには至っていない。	○	スタッフ配置の工夫、職員に対して働きやすい環境を個別に把握し、提供することによって離職を極力防ぐよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修を受講する機会があり、日程の調節を図っている。研修などの知らせは提示し、参加する機会を設けている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は区や市の管理者会議で交流する機会がありネットワークを確立している。行事に他グループホームの利用者や職員を招待したり、見学などで交流しているが、一部の職員のみで全体にまでは及んでいない。</p>	<p>○</p> <p>運営者と管理者が中心に他グループホームの見学などを通してネットワーク作りを進めていく。交流することによりお互いにサービスの質の向上に努めていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職場の環境作りに努めている。職員の要望に対してハード面に関して早急に聞き入れ、対応してくれている。親睦会や他グループホームとの交流会はない。</p>	<p>○</p> <p>職員個々のストレスに感じることを聞き取る機会を設けて把握し、改善していく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>努めている。職員の要望や勤務状況を把握しており必要なときは話し合いを持っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人の意向を傾聴し、不安や心配を軽減できるよう努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族の意向や不安なこと、困っていることなどをよく傾聴し、受け止める努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際、他のサービスが必要と思われる場合はサービスの説明をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用開始前には、主に家族がホームを見学することが多い。開始後は家族と連携をとりながら声掛けなどを工夫し、本人がホームになじめるような支援をしている。	○	利用開始前の職員と本人のコミュニケーションなど安心してサービスを受けられるようにしていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	できることは自分でしてもらい、できないことは声掛けや見守りをしている。接している時に利用者から教わることは多く、園芸やおはじき、あやとりなど自らやる意欲があるものは積極的に行ってもらい、職員も教わっている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の要望を極力取り入れ、同じ目線でケアするように努めている。喜怒哀楽を共にする時間を持つことは少ない。	○	行事などの参加を呼びかけ、一緒に喜怒哀楽を共にし、よりよい関係を築きたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	外出や外泊、電話、面会などに制限はなく、いつでも受け付ける体勢をとっている。月一回の便りを発送し、本人の様子や写真などを載せている。	○	行事の参加を呼びかけ、一緒に参加していただくなどの支援をしていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や手紙などにより、馴染みの人との関係が途切れないようにしている。また、本人のアルバムを手の届きやすい場所に置いている。ご家族や知人の来訪時には自室でゆっくりすごしてもらおうよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しがちな利用者もいるが、対立する利用者同士を離し、距離をおいたり、声掛けなどで配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了して関わりを必要とする家族はいなかったが、運営者が折に触れ関わりを持ったりする場合がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で表情、会話、家族からの情報を元に把握に努めている。困難な場合は利用者の立場になって考え、職員同士意見交換を行い、具体的な対応をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にアセスメント用紙に記入していただいている。家族の来訪時や聞くことが可能な利用者から新しい情報を聞いた際には、その都度アセスメント用紙に記入している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活を記録し、全職員が把握に努めている。状態の変化をよく観察し、連絡ノートや医療ノート、朝、夕の申し送りなどで把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意見や希望を聞き、反映させている。職員全員で話し合いながら作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p> <p>本人の状態の変化に伴い、本人や家族の要望を踏まえつつ、その都度、介護計画の見直しを行っている。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p> <p>本人の生活している状況や言葉などを詳しく個別の介護記録に記入するよう努めている。本人、家族、職員で介護記録を共有し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p> <p>通院時、家族のみでは困難な場合の職員同行や買物、美容院への同行などの支援を行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p> <p>消防の協力を得て避難訓練、警察の協力を得て徘徊ネットワークなど利用者の危険を極力防ぐように努めている。また、ボランティアや民生委員の協力も得ている。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p> <p>美容室へ行くことが困難な利用者にはホームに来てもらっている。他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合うことはない。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p> <p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加している。情報交換や話し合う機会があり、協力体制は築けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族が希望した医療機関を受診していただいている。また、協力医療機関による二週間に一度の往診や看護職員による健康管理も行なっている。基本的に受診は家族が同行しているが、必要時には職員が同行もしくは代行も行っている。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>家族と相談しながら受診の支援をしている。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>週に一回看護職員を配置し、利用者の健康管理を行っている。その他にも何かあった時は電話などで連絡をとり、指示をうけている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院した際は病院関係者との連絡を密にとるようにしている。本人、家族、病院側と相談し、早期退院に努めている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>指針を作成し、本人または家族と職員は共有している。かかりつけ医とは共有していない。</p>	○	<p>かかりつけ医と重度化した場合や終末期のあり方について話しあう場を設け、方針を決めていきたい。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>できることできないことを見極め指針の中に提示した。かかりつけ医と重度化や終末期に関して具体的に話し合っていない。</p>	○	<p>かかりつけ医と話し合い、指針をより具体的な物にしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	職員は住み替え時のダメージを認識しており、情報交換や話し合いによりダメージを軽減するようしえんしている。(馴染みの家具の導入、家族の訪問回数、不安の傾聴など)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	本人の尊厳を損なわないような声掛けや対応に配慮している。トイレ誘導時に用事があるからなど声掛けに工夫している。個人情報の取り扱いには十分注意している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の意志を尊重し、困難なことは一緒に行ったり、見守りをしている。本人が何を思い、どういった行動をしているかなど日々観察し、希望を読み取るように努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員で決めたことを押し付けるようなことはせず、その都度、傾聴し、希望に応じられるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	カットの希望を申し出られた時は予約して近所の美容院へと行かれています。自分で訴えられない利用者には日付管理をして本人に声掛けを行い、美容室への支援を行っている。また、美容室に行く事が困難な利用者にはホームに美容師を招いてカットしていただいている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人の嗜好、アレルギーなどを把握し、嫌いな物を抜いたり、違う物を提供したりしている。準備や片付けは特定の利用者のみこちらの声掛けにて応じてくれる。	○	本人自ら進んでやる意欲をひきだす工夫を職員全員で話し合っていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おかしやあめ、飲み物に関しては本人の嗜好を元に提供したり、購入してもらっている。たばこに関しては禁止はしていないが、家族と相談の元、病的な理由であめなどの代替的なものを提供したこともあった。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	全利用者の飲水、排泄チェック表をもちいて排泄パターンの把握に努めている。医師、看護師の指示のもと、下剤の調節を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望時にはその日に入浴できるように配慮している。基本的にすべての利用者が入浴に見守り、あるいは介助が必要なので時間帯はほとんど決められている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の傾眠については夜間の睡眠リズムを考え、極カレクなどに参加を呼びかけ覚醒してもらうようにしている。夜間は無理に寝かせない、無理に起こさないよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	掃除や食器片付け、散歩、園芸、カルタ、歌など一人一人が好むことを、積極的にしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族との相談の上で金銭管理は自由になっている。自ら買物に行き支払ったり、職員にお金を渡して買物を頼んだりしている。金銭管理が困難な利用者は本人や家族に了承を得て職員が購入している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出希望ある利用者にはなるべく外出していただくよう支援している。極端な外出希望者に対する対応に苦慮しており、外出する利用者が片寄っている。	○	ボランティアの活用、外へ出たがらない利用者への声掛けなど家族を含めて話し合いたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出レクなど四、五人で動物園、お花見、テーマパークなどへ車でやっている。家族との外出、外泊は自由に行われている。	○	個別化を重視した外出レクを計画していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は希望時いつでも自室に一人でゆっくり会話することができるよう支援している。手紙は希望時職員が代筆したり、本人の代わりにポストにだしにいくなどの支援を行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限はなく来訪時に自室で本人と一緒に過ごしていただいている。職員は挨拶や話をしたりして居心地良く過ごせるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。申し送りなどで確認しあっている。すべての職員が介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できているかは把握出来ていない。	○	介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為の勉強会を行いたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は九時から十九時まで開錠しており、出入りは自由となっている。玄関に床センサーなどがあり不意の外出にも対応できるようになっている。居室に鍵は一切設置していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	フロアには基本的に必ず一人職員がいて、記録なども全体が見渡せるようなところで記入している。居室にいる利用者にも水分提供や職員同士の声掛けにより状況を把握するよう努めている。夜間は定期的に見回りを行い、状況の把握に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品が何かを職員で話し合い、見極めて管理方法を決めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員間でその人の状況を記録や声掛けなどで把握し、事故を未然に防ぐように努めている。ひやり、はっと記録、連絡帳などにより、実際にケアしている時に危険と感じたことを職員全員で共有し、対応を話し合っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルを作成しており、すべての職員が共有している。職員によって訓練の回数に差があり、すべての職員が訓練を受けているわけではない。	○	定期的に訓練、研修を行い、全ての職員が習得できるようにする。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防の協力のもと避難訓練を行っており、非難口、消火器の場所の把握をしている。近くの公園が避難場所となっている。居室などに火災報知器を設置している。運営推進会議などで地域の人たちに協力を呼びかけている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプラン提示時などで家族に説明、相談を行っている。状態が変化したときはその都度電話などで家族に説明し、本人にとってよりよい暮らしを支援できるように話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の様子や食欲などよく観察し、体調変化の早期発見に努めている。変化があったときは管理者、看護師に連絡をとり、必要に応じてかかりつけ医に連絡し、対応している。記録や、申し送りで全職員が情報を共有している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々のケース記録にその人が処方されている薬の内容などがのっており、全職員が共有している。薬が変更になったときは医療ノートに変更した内容を記入し、確認できるようにになっている。個々に研修などにも参加している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	水分、排泄チェック表により排便パターンや水分量を把握し、水分の少ない利用者には水分を促すよう勤めている。看護師やかかりつけ医の指示のもと下剤調整を行っている。毎朝牛乳を提供したり、体操や廊下歩行などで自然排便を促すように努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	三食後に口腔ケアを行い、個々に声掛け、見守り、介助を行っている。拒否が強い方は家族と相談の上訪問歯科の利用を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェック表に記入し、水分量を把握している。拒否が強い利用者には声掛け水分の種類、提供場所を変えるなど行い対応している。食事が少なかった場合は記録に記入し、本人が好むものを提供している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護師を中心に職員で話し合いマニュアルを作成している。外出後、食事のうがい、手洗いやインフルエンザの予防接種、一日二回の換気などにより感染予防に努めている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は冷凍品や保存食以外使用する前日もしくは前々日に業者から配達され保存している。まな板、ふきんは必ず一日一回以上消毒している。一ヶ月に二日食器や調理器具の消毒、台所の清掃する日を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各居室にネームプレートを設置している。そのため確認して入られる利用者もいる。また、トイレや洗面所にも提示しており、夜間、トイレの入り口に電球をつけるなどの工夫をしている。職員が困っている利用者を見かけたとき、声掛けなどで自ら解決できるよう支援している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関の近くにベンチ、テーブルを設置しており、お茶を飲んだり、涼んだりできるようになっている。その近くに花なども植えてあり、好きな利用者は水やりや手入れ、実を収穫するなどして楽しまれてます。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている  <input type="radio"/>②少しずつ増えている  <input type="radio"/>③あまり増えていない  <input type="radio"/>④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input type="radio"/>①ほぼ全ての職員が  <input type="radio"/>②職員の2/3くらいが  <input type="radio"/>③職員の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/>①ほぼ全ての利用者が  <input type="radio"/>②利用者の2/3くらいが  <input type="radio"/>③利用者の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/>①ほぼ全ての家族等が  <input type="radio"/>②家族等の2/3くらいが  <input type="radio"/>③家族等の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 思いやりと優しさを持って、本人の自己決定を尊重し、個々のペースに合わせた、利用者本位のケアを行い、接している。